

世界遺産のまち宗像の「ふるさと学習」

～ふるさと宗像への誇りと愛着の心を育む取組～

宗像市教育委員会

1. はじめに

本市は、北九州市と福岡市の間に位置した人口約9万7000人のまちです。玄界灘に面することから、古来より東アジアにおける海上貿易や外交の窓口として交流する中で「神宿る島」を崇拝する伝統が発展し、現代まで継承されてきた証として平成29年7月に「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群が世界文化遺産に登録されました。

現在、小学校14校、中学校6校、義務教育学校1校において、義務教育9年間をとおしたカリキュラムを整え、小中一貫したふるさと学習を推進しています。

2. 教育目標

本市では、「教育」は人づくりの基本であり、魅力ある「まちづくり」の礎であるとの考えのもと、「みんなでつくる」「未来につなげる」「元気で住みやすい」まちづくり、将来にわたって持続可能なまちづくりを推進するため、次の4つの基本方針を宗像市の教育施策の柱としています。

- ①自ら学び、未来を拓く
- ②家庭と地域、学校の学びを大切にし、相互の関わりを深める
- ③互いを尊重し、多様な学びを進める
- ④世界に誇るまちを学び、次世代につなぐ

3. 教育委員会・学校での取組

ふるさと宗像に誇りと愛着の心を育むことを目的として、各学校において、持続可能な社会の創り手としての意欲や態度を育みながら、恵まれた自然や歴史文化を生かした「世界遺産学習を核としたふるさと学習」に取り組んでいます。

1. 実施内容

学年	教科・領域	単元名	時数
1	生活科	「わたしの がっこう どんなところ」 「わたしの つうがくろ」	14 時間
	国語科	「本はともだち」(おきのしまは かみのしま)	1 時間
2	生活科	「わたしの町はっけん」	29 時間
	国語科	「聞いてたのしもう」(おきのしまのむかしばなし)	2 時間
3	総合的な学習の時間	「調べよう！宗像市にある沖ノ島」	5 時間
4	社会科	「思いを伝えよう！私たちの「みあれ祭」	8 時間
5	総合的な学習の時間	「考えよう！世界遺産のすばらしさ」	7 時間
6	総合的な学習の時間	「『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群の価値」	24 時間

7	総合的な学習の時間	「宗像にある世界遺産の価値を伝えよう」	4 時間
8	総合的な学習の時間	「関西地方の世界遺産について学ぼう」	6 時間
		「修学旅行で学んだことから宗像の世界遺産の価値を再発見しよう」	2 時間
9	総合的な学習の時間	「宗像の課題と可能性について考え、地域に提言・発信しよう」	4 時間

2. 取組例

①「ふるさとふるふる講座」の活用

本市の遺産群の意識や価値のほか、宗像の歴史や民俗、景観等の世界遺産学習を核としたふるさと学習を実施するにあたり、行政職員等を派遣する出前講座を設けています。

②社会科等体験学習事業

世界遺産ガイダンス施設「海の道むなかた館」での展示物の見学や体験学習、宗像大社や神宝館での国宝の見学などを行う社会科等体験学習事業を行っています。

③世界遺産学習副読本の活用

宗像の世界遺産に関する副読本を配布し、義務教育9年間をとおした学習に活用しています。

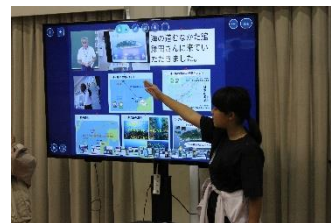


④世界遺産に関わる PR 及び体験活動

玄海東小学校では、第3学年から第6学年の総合的な学習の時間において、宗像大社や沖ノ島、みあれ祭などについて系統的に探究活動を行っています。特に第6学年においては「宗像の世界遺産の魅力を多くの人に伝えたい」という目的をもち、海の道むなかた館のガイドへの聞き取り等を通して情報を収集したことを自分たちの言葉でまとめPRする活動を行います。



「ふるさとふるふる講座」で宗像大社、
珍宝館、新原・如山古墳群を見学する児童
(上記写真は新原・如山古墳群の見学の様子)



ICTを活用したPR活動の様子



「みあれ祭」に参加する児童

4. おわりに

「世界遺産を核としたふるさと学習」を単発で終わらせるのではなく、カリキュラムとして整え、全ての学校で意図的・計画的に取り組むことで、児童生徒の世界遺産に関する知識やふるさとへの誇り、愛着は着々と醸成されていると感じています。令和5年度は「ふるさとふるふる講座」や現地見学等の活動が再開され、ICTを活用したPR活動など取組を充実させることができました。次年度以降も感染症対策を講じながら世界遺産学習を進め、ふるさと宗像への誇りと愛着の心をもった子どもの育成を図っていきたいと思います。